文化トピックス

遠野は10番目の南部領

盛岡藩主南部利直の命で、八戸から遠野に所替えした直義に交付された古文書「拾戸遠野村付之目録」の影写本が南部家子孫から市に寄贈されました。遠野が南部氏十番目の領地だったことを証明する貴重な資料です。

影写本は東京・府中市の東郷寺住職南部光徹さん（遠野南部家第三十七代）、姉の恵美子さんと壽々子さんが元東京大学史料編さん所技官の宮本尚彦氏に製作を依頼し、市村合併を記念して寄贈されました。

この文書は、利直が寛永四（一六二七）年三月十七日に直義に交付した、新しい領地の村高の目録です。遠野領だけで九千九百二十七石五斗九升。平館（八幡平市）や巻堀（盛岡市玉山区）など遠野以外の領地を合計すると一万二千四百九十七石八升八合と記載されています。

注目すべきは題名の「拾戸遠野」という記述です。往時の南部領では、馬産政策などの関係から領内を一戸から九戸まで区切って統治していました。「遠野」という地名は中世にはすでに用いられており、南部家の新領地となった遠野に南部氏の十番目の領地という意味の「十（拾）戸」という記述を付けて呼んでいることを示す大変貴重な研究資料です。

「拾戸遠野村付之目録」の影写本

市は、この影写本を城下町資料館に展示し、南部氏ゆかりの市町村との交流を深めるきっかけとして末永く保存、活用していきます。

※1＝影写本とは古文書原本の上に薄い和紙を重ねて手作業で文字の形状・筆勢・墨のかすれやにじみまでも本物そっくりに正確に写しとったもの

※2＝村高とは村の生産力。村が作り出す富の総量を米の量に換算して示した数字

※3＝一石は約百五十キログラム、一斗は約十五キログラム、一升は約一・五キログラム

遠野風土記

オシラサマ

オシラ神は、桑の木などで作ったご神体にオセンダクなどと呼ばれる布を着せ、主に養蚕や目の神として東北地方を中心に信仰されている民間信仰の一つです。

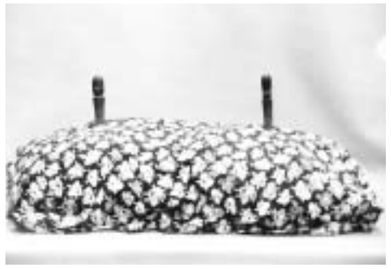
オシラ神は明治二十七（一八九四）年、市出身の民族学者伊能嘉矩が書いた「奥州地方に於て尊信せらるゝオシラ神に就きて」という論文によって学会に紹介され、柳田國男の『遠野物語』によって全国に知られることとなりました。

平成十二（二〇〇〇）年七月に市が行った調査では、市内の六十五軒の家に合わせて百七十三体のオシラサマがあり、その多くは二体一組で祭られています。

約三十センチのご神体には、頭を布で包んだ包頭型と、頭を布から出した貫頭型とがあり、貫頭型の頭部には男と女、馬と娘などが彫刻されています。墨で顔を書いたもの、あるいは何も書かれていない棒状のご神体もあります。市内にあるオシラサマは、貫頭型が七割以上を占めています。

及川家のオシラサマは貫頭型で、大きさは左側の娘が二十七センチ、右側の馬が二十八センチあります。一月十六日の祭日には小豆がゆをお供えし、着物を一枚着せます。それぞれの頭の下には「文禄三（一五九四）年三月十六日」と墨で書かれています。

一般的にオシラサマなど民間で信仰されている神様には、年代を示す記録が少ないとされていますが、及川家のオシラサマは年号が記されている物の中では市内で最も古いものです。江戸時代以前の遠野において、オシラサマ信仰が存在したことを物語る貴重な例といえます。



市指定民俗文化財（有形民俗）
所在地　小友町下川原
所有者　及川賢吉氏

市長ひとこと

スローライフ

それぞれが歩んできた歴史を大切にしながら、新たな視点での地域づくりという願いの下に新市がスタートし今月末で一年になります。この間に、さまざまな市民団体や機関などの再編も進みました。それぞれのリーダーの方の努力はもちろんのこと、市民の皆さんの理解と支援があったからこそ順調に再編が進んだものと思います。

八月十日、二戸市で県市長会総会が開かれました。地方自治体の厳しい現状を表すかのように議論が白熱し、終了予定時間を延長するほどでした。平成の大合併が一段落と思いきや、次々と新たな仕組みの立ち上げや制度の見直しの波が押し寄せてきており、改革のスピードは加速しています。

先般、全職員に向け『スピードの価値と必要性』を認めつつ『ゆったり、ゆっくり』としたフットワークを大切しよう」と話しました。このスタンスを「スローライフ」といい、漢字で書くと「緩急自在」。新市の地域づくり、遠野らしさのこだわりにとって大事な言葉と思っています。

（本田敏秋）

行事予定

【9月】

◇教育委員会定例会　13日㈬午後1時30分　市民センター第2会議室

◇市中学校新人大会　23日㈯、24日㈰　遠野中学校新体育館ほか

◇第40回手をつなぐ育成会県大会・本人大会　24日㈰午前10時30分　市民センター大ホール

◇市内小学校陸上記録会　28日㈭　運動公園陸上競技場

【10月】

◇2006躍進みやもり祭　7日㈯午前10時、8日㈰午前9時　みやもりホール

◇第18回南部馬の唄全国大会　8日㈰午前10時　市民センター大ホール

◇市内一周継走大会　8日㈰午前10時　小友町スタート

シリーズ 7 虫の世界

ハグロトンボ　カワトンボ科

二〇〇一年八月　新町で撮影

町から少し離れた小川や池のほとりなどでよく見掛けます。

腹長（しっぽ）が5センチほどで、羽が黒いので目立ちます。

ひらひらと川岸を飛び交っている様子は、おとぎの国の妖精が踊っているようにも見えます。

最近、トンボの種類がひところに比べ増えてきたように感じます。

トンボの餌は、小さな虫ですから、どうすれば餌を確保できるか、みんなで考えてみたいところです。

◎分布　本州、四国、九州

原色昆虫図鑑（小学館）

（新町・時田克夫）

図書館・博物館だより

☎62-2340

●新着図書

◆一般向け

▽本朝金瓶梅（林真理子）▽白夜街道（今野敏）▽君はフィクション（中島らも）▽恋愛は革命（渡辺淳一）▽チェーホフを楽しむために（阿刀田高）▽君だけの物語（山本ひろし）▽杉浦日向子の食道楽（杉浦日向子）▽北風の軍師たち（中村彰彦）

◆子ども向け

▽しらないまち（田島征三）▽でんきがまちゃんとおなべちゃん（長野ヒデ子）▽おしゃべりねこのグリグリグロシャ（パスカル・エステロン）▽わらっちゃった（大島妙子）▽やぎとぎんのすず（小沢良吉）▽ねこのパンやさん（ポージー・シモンズ）▽はなかっぱ（あきやまただし）▽戦国の雲（斉藤洋）

●催し物案内

◆親と子の映画会▽9月17日㈰午前10時30分▽図書館視聴覚ホール

◆子ども映画会▽10月7日㈯午前10時30分▽図書館視聴覚ホール

●移動図書館

▽8日＝アパレル、馬の里、やまゆりの里▽19日＝土淵町▽20日＝青笹町▽21日＝上郷町▽22日＝SMC、宮守生コン▽26日＝宮守町宮守・達曽部▽28日＝TKR、YDK、石上の園▽10月3日＝小友町・宮守町鱒沢▽4日＝綾織町▽5日＝松崎町▽6日＝附馬牛町

●寄贈者（敬称略）

▽鈴木南水▽照井恵▽菊池誠▽細越弦二郎▽東浩▽市地域婦人団体協議会▽新里順一▽菊池智子▽市老人クラブ連合会▽遠藤陽子▽井手光昭▽高木スミ▽藤澤保夫

●休館日

▽図書館＝11日、18日、25日、30日、10月2日

▽宮守ゆうYOUソフト館＝11日、18日、25日、30日、10月2日

▽博物館＝30日

●図書館の開館時間を延長します

▽9月末までの毎週金曜日、午後7時まで開館します。

おすすめしたい本

一般向け

「新・風に吹かれて」
五木寛之　著

「風に吹かれて」という生き方を勧めた一読喝采、再読苦笑のおかしく、やがてジンと胸にくる五木エッセイの真骨頂。四十年前のエッセイを書き継いだ新たな試みの一冊です。

子ども向け

「たがや」
川端誠　著

隅田川の花火見物で大変なにぎわいの両国橋の上で、「たが屋」の身重のおかみさんも長屋のみんなと花火見物。ところが、おかみさんが突然産気づいてしまい…